

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092600081		
法人名	株式会社 ディーグリーン		
事業所名	グループホーム コスモス今元		
所在地	〒824-0018 福岡県行橋市大字今井3138-1	0930-26-1811	
自己評価作成日	平成25年03月25日	評価結果確定日	平成25年05月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年04月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設基本理念のとおり、お一人お一人を理解し温かい思いやりをもち又、尊重し尊敬の意をもって充実した人生を送れるようお手伝いしたい。施設に閉じこもるのではなく、外出も多く取り入れることで、生き生きとのびのび生活を送っていただきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残る今川沿いの近くに、小規模多機能ホームと併設のグループホーム「コスモス今元」がある。山と海に囲まれ、田園地帯を吹き抜ける春風は、利用者と職員の散歩コースに届き、爽やかな一日が始まっている。開設1年であるが、運営推進会議に、地域の委員が沢山出席し、地域情報や、事業所の理解に協力的で、隣接の企業と非常時に、相互援助協定を結ぶ等、地域との交流は活発である。また、看護師が小規模多機能ホームに常勤し、24時間オンコール体制が整い、隔週毎の宿泊者の往診と、介護職員の細やかな見守りと合わせ、健康管理体制は充実したものがあ。今後は、行政と協働で、認知症の啓発活動と、高齢者家族の介護相談等に取組み、地域福祉の拠点として、社会貢献を目指しているグループホーム「コスモス今元」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人の充実した生活、尊重、互いの信頼関係、尊敬の意を基本理念にかかげ役職員一同、実践につとめている。25年度の施設テーマは、愛情としている。	理念を玄関やリビングに掲示し、職員全員が理解を得て、共有しながら、「利用者がどういう風に暮らしたいか」に思いを馳せながら、理念の実践に取り組んでいる。また、職員は、迷ったり、悩んだりした時は、初心に帰り、利用者一人ひとりに合わせた、介護サービスの提供に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当地区には祭り等のイベントがなく参加できるものがないが、地域の季節の名所、公園等にはレクリエーションとして外出し交流を図っている。	専門学校生の職場体験やボランティアの受け入れ、来年度は地区の子供会の介護体験学習を企画する等、積極的に地域交流を図っている。また、隣接する企業と、非常時の相互援助契約を結んでいる。	地域との交流が少しずつ始まっているが、ホームの実態を理解してもらいながら、ホーム行事への参加を呼びかけたり、地域の行事に参加する等の相互交流を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がいつでもおいでいただけるよう、コミュニティホールをもうけている。又将来のためにと見学も多く家族の支え、本人の能力に応じたアドバイスを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表として、地区区長会会長、区長、老人会、民生委員会会長、地区民生委員、支援センター2名、市役所2名と多くの参加を頂き、毎回、様々なご意見、ご指導のほか、勉強会を行っている。	運営推進会議は、大勢の地域代表の参加、行政や包括支援センターからも参加があり、協力的な体制の中で、2ヶ月毎に開催している。利用状況や行事報告等が行われ、参加者からは活発に意見や要望が出され、充実した会議になっている。出された意見は検討し、出来るだけ運営に反映させる努力をしている。今後は、新しい企画や議題を検討し、充実した会議を目指している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着サービスであり保険者である市役所とはオープンな形で現状、確認を行うようにしており当施設の事は十分把握いただいていると思う。	行橋市主催の毎月1回の認知症勉強会に、職員が2名参加し、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に行政職員が2名、地域包括支援センター職員が2名参加し、ホームの実情と課題を理解してもらい、協力関係が始まっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現入居者は比較的、軽度のかたで拘束はありえない状態です。職員研修、ミーティングでも確認しており、今後も拘束のないケアを実践していきたいと思えます。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、職員は外部研修に参加し、内部ミーティングの中で言葉の拘束も含め、身体拘束が利用者に及ぼす影響を確認し、職員同士で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、ミーティングを通じ、職員全員、認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で司法書士を講師として招き、勉強しております。	現在、制度を利用している方はいない。制度の資料を用意し、司法書士を招いて、成年後見制度についての勉強会を行い、職員全員への周知を図っている。また、利用者、家族が制度を必要とする時、活用のための支援と、関係機関に橋渡しができる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分行っており、家族からのクレームは一度もありません。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議のなかで意見、提案を出していただきそれを反映しています。	玄関に意見箱の設置と苦情受付窓口を掲示し、いつでも利用者、家族の意見を受け入れる姿勢を示している。また、家族の面会が多く、声をかけ、コミュニケーションを取りながら、要望や心配事を聴き取っている。来訪出来ない家族には電話で連絡し、毎月ホーム便りを送付する等して、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。	ホーム行事等を利用し、家族に呼びかけて家族交流会を実施し、家族同士で話ができる機会を作り、ホームとの更なる信頼関係に繋げていくことを期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員には、意見を言いやすい環境をつくっており、意見をよく言ってきています。	職員会議を毎月定期的に行い、出来るだけ多くの職員に参加してもらうために14時からの開催としている。欠席者には議事録を回覧し全員で共有している。職員一人ひとりが意見を言える環境作りと、出された意見をホーム運営と、サービスの向上に反映出来るよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験、資格、実績等、で職務手当、賞与に反映しており、公休希望も優遇しています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については、人柄重視で基本的にやさしい方と考えており、性別、年齢にとらわれずに雇用している。個々の能力を發揮できるよう配置転換も本人と話し合い行っている。	職員のロッカー、休憩場所を確保し、リフレッシュしながら働ける環境の整備に努め、昼の休憩時間は声を掛け合い交代で一時間取っている。また、職員の特技を生かした適材適所への配置や、希望休、勤務時間の配慮等、柔軟な対応により、職員一人ひとりが生きがいをもち働ける職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念のとおり、人生の先輩として、尊敬の意を持ち接することを念頭におき、サービスをおこなっている。	理念の中で、人生の先輩である利用者一人ひとりを尊敬し、尊重する事を掲げ、週に1回唱和する事で意識づけを行っている。職員は言葉遣いや接遇に気を配り、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、利用者が安全で安心して暮らせるホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加し受講者が発表しサービス向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行橋市主催の月に1回ケアマネ勉強会で他施設の職員と交流がはかれる機会があり、又職員2名月1回認知症の勉強会(行橋市主催定員25名)に出席している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に本人、家族とよく話し合い、要望等を聞き出すよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を聞き取りを行い信頼関係をつくり相談しやすい関係をつくるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を把握しサービスを提案している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は手伝いをお願いしお礼を言い、共に助け合う環境づくりに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院はできるだけ家族にお願いし本人と家族の絆を大切にしたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家に帰りたい要望があれば気軽に家におつれしている。留守であるが家を見て納得されませぬ。又面会の方が来られたら、お帰りの際は本人と玄関先までお見送りをし、また来てくださいとお願いしている。</p>	<p>近所の方が面会に来られる事も多く、利用者と楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮している。また、「家に帰りたい」「畑を見に行きたい」と言われたら、その都度同行してお連れする等、利用者の思いを大切にしながら、馴染みの場所や、人との関係の継続に努めている。また、併設の小規模多機能ホームの利用者との交流も含め、新しい馴染みの関係作りにも取り組んでいる。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ソファでTV観覧時ひざ掛け毛布を3人ずつで分け合って使用するなど、現状非常に仲が良く、今に関係を継続できるよう、職員が努めていきたい。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期の病院入院などで退去された場合も病院に見舞いに行き状況を把握している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や希望、意向を聞きできる限り利用者本意の生活ができるよう努め、意向が表出できない場合は入居者の視点に立って支援できるように取り組みたい。</p>	<p>職員は利用者一人ひとりに寄り添う事で、思いや意向を把握し、「あそこに行きたい」「あれが食べたい」等、家族と相談しながら、希望の実現に努めている。また、意向の表出の困難な利用者に対しては、生活歴を見直し、家族に相談し、職員間で話し合い、本人本位のケアを目指している。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、主治医、に話を聞き、その人らしい生活ができるよう、健康状態等を含め、経過を把握するよう努める。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者の担当をきめており、担当者が現状を把握し朝礼や夜勤に引き継ぎを行い利用者の変化に対応するよう努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の要望、課題を把握し、家族、主治医の意見も反映し介護計画にあたっている。</p>	<p>4月1日から計画作成担当者が変わり、現在、利用者一人ひとりについて見直しを行い、家族とも挨拶を兼ねて要望を聞きに行く予定である。家族の面会時や電話で連絡を密に取り、3ヶ月に1度のモニタリングを行い、職員間で検討し、関係者から情報を収集し、話し合い、6ヶ月毎の計画の見直しを行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に日常の様子等、記録し情報を共有している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人を家族と考え、お一人お一人の気持ちになり、要望にも柔軟な対応に努めている。又、季節の行事、外出も多くとり入れ、施設内でどこもならないよう支援を考えている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護専門学生の職場体験の受け入れ、地域ボランティア様には慰問いただいて交流をはかっております。25年度は介護相談員の受け入れ、地区の子供会への介護体験学習も企画しておりさまざまなふれあいができるよう努めたいと考えます。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に沿って医療機関を受診しています。かかりつけ医とは、小さいことから、相談できるような関係づくりに努めています。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を行っている。提携医による定期的な往診と、常勤看護師のきめ細やかな見守りとの確な判断、介護職員とのチーム介護により、充実した医療連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医師、看護師の訪問があり、職員が状況を伝えていきます。又職場内に看護師があり、24時間、職員からの対処の相談に対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に訪問し医師、看護師と容体について話し合っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について、契約時に同意書をいただいている。終末期の治療方針については、家族の意見を尊重したい。	医療連携体制を整え、主治医の往診や受診支援により、利用者の状態変化に合わせた介護サービスの提供に努めている。また、「重度化や終末期に向けた指針」を作成し、家族に説明し、話し合いを行うことで方針を共有し、利用者が安心して暮らせる支援体制の確立に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内看護師に看護の対応について個々に対応できるよう指導、勉強をうながしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアル、避難経路、を職場内に掲示して徹底している。隣の集配工場と相乗援助契約をしており災害時に協力いただけるようにしている。	3月29日に消防訓練を実施し、通報訓練と誘導訓練を行い、非常口、避難経路、避難場所の確認と、併設の小規模多機能ホームとの協力体制を確立している。また、隣接の企業とは相互援助協力を結び、地域との協力体制を築いている。	地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を行うと共に、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品(カセットコンロ、懐中電灯)の準備が望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の意をもって接するよう徹底指導している。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、尊重しながら、利用者の要望で、居室の小窓にフィルムを貼る等、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供を目指している。また、職員の守秘義務の遵守や個人情報の取り扱いについて更なる検討を始めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、意向は尊重するよう、問いかけしている。歌レクにちからをいれており、声を出すことで脳の活性化に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態にあわせて、その日の暮らしを考え、ゆとりある日々が送れるよう心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理容師をお願いしており、訪問時、本人の意思で散髪している。爪の管理、洋服も同じものを好む傾向にあるが、変化あるよう職員がうながしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるだけお手伝いいたくようにしている。おいしいかどうかこえかけもおこなっている。	3月までは職員が食事作りを行っていたが、調理にかかる時間を利用者で過ごす時間に充てようと、配食サービスの利用を開始し、新鮮な食材を使い、カロリー計算された安心な食事が提供され、利用者の評判も良好である。また、月に3、4回は、利用者の希望を聴き、餃子、ちらし寿司、カレー、五目稲荷等を作り、手作りの食事を楽しんでいる。	配食サービスの検食を職員が交代で行い、意見、要望を伝える事で、利用者にとってより良い食事の提供が出来るよう取り組む事と、利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を取りながら、見守りを兼ねた家庭的な、楽しい食事の時間になるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の病状に応じた食事量を医師からのアドバイスもいただき、コントロールしおている。水分量については、毎食時、おやつ時(2回)風呂上がり時、お薬時と一日を通じて確保行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。舌の状態、歯の状態、入れ歯の状態を考察している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排尿パターンを把握し、声掛けしトイレ誘導を行っている。	職員は、排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライドや羞恥心に配慮し、優しい声掛けや、早めの誘導で、出来るだけトイレでの、自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等、軽い運動を取り入れている。又、便秘がちなかたは家族と話し、ヨーグルト等食していただいている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に一日置きに入浴いただいている。毎日、風呂を沸かしているため、利用者の状況に応じ、対応している。	入浴は、一日おきに行っているが、利用者の希望があれば毎日でも可能である。利用者一人ひとりに合わせて湯温を調節し、鮮やかなグリーンの壁の明るい浴室で、利用者が気持ちよく入浴出来るよう支援している。入浴に抵抗を感じられる利用者に対しても、声掛けを工夫しながら楽しい気持ちで入浴して頂けるよう工夫している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調、気分、習慣にあわせて、休息、安眠できるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師がおこなっており、利用者の体調を把握しながら、担当医にも相談している。又職員にも服薬に意味、症状の変化を観察するよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が一日一回でも楽しかったと思うことがあるよう心掛けている。洗濯物をたたむときは自分で自分のものを探していただき、たたんでいただいている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食となるだけ、体調と相談したうえで、外出を心掛けている。	八景山に梅鑑賞に出かけたり、今川沿いの菜の花、桜の花見等、出来るだけ季節を感じる事の出来るよう、外出支援を行っている。また、日常的な散歩、買い物、ドライブ、外食、畑での収穫等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援を積極的に行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方はご自分で所持していただいている。できない方は、預かり金としてアズがつて管理、サポートしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方はいつでもかけていただくよう、とりつぎしている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり物を置かず、落ち着ける空間を作っており、見学者からも誉めていただいている。	広い敷地の中に季節の花が植えられ、畑ではサツマイモの収穫を行ったり、玄関を入った正面には、地域交流スペースが設けられ、地域の方との交流の場となっている。リビングの壁には利用者の笑顔の写りが掲示され、楽しそうなホームでの暮らしが伝わってくる。室内に置かれた花の鉢の水やりを利用者が行ったり、テーブルを囲んで談笑する様子から、穏やかな暮らしが伺える共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南むきの共有空間で一日中、日当たりが良い、食卓、ソファで利用者の方が、思い思いの利用をされている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、利用者の方、ご自由に使い慣れた物を持ち込んでいただいております、居心地良く過ごしていただいております。	居室は、利用者の今までのスタイルを出来るだけ変えないように、好みの物を持ち込んでもらっている。家族の写真や思い出の品物、使い慣れた小物等、出来るだけ自宅と違和感のない雰囲気の中で穏やかに暮らせるよう配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	規定の手すり以外にも、手すりを配置している。又床には、転倒時を考慮し、5mmのコルクをしきつめており、歩行はクッションがきており、足、膝の負担が少ないよう、配慮している。		